

○議長（中本正人君） 順番15、14番 岡君。

〔14番（岡 弘悟君）登壇〕

○14番（岡 弘悟君）お昼前の最後になると思います。同僚議員、ちょっと上からの言い方になってしまいますが、後輩議員の皆さんが本当にどんどん一般質問がうまくなってきて、自分がちょうど9年たって来年度から10年目を迎えるんですけども、本当にこの議会で、皆さん、すごい上手に一般質問されるなどと思って聞いていたんですけども、自分が1回目にした質問というのは本当に覚えていて、1回目にしたときに議場がざわめいたんです。自分はすごいことを言うたんと違うかと。すごいところを突いたんやなと思ったんですけど、よくよく考えたら、ほんまむちゃくちゃなことを言うておったんですね。ほんで、むちゃくちゃなことを言うておって、部長が答弁に困ってて議場がざわついたというのは後から気づいて、何てことを言うたんやなというのを、今ほんまに、この議会でふと思い出したんで、ちょっと前段しゃべらせてもらおうと思ったんですけど、あれからどれだけ自分が一般質問がうまくなったというのは自分ではわからんですけども、なるべくむちゃくちゃなことは言わんように、極力聞きやすく一般質問はしようと思っておるんで、明確な答弁、よろしく願いいたします。

まず、大題一つ目。外部委託全般の評価と各事業の必要性について。

現在、多くの事業が外部委託という形態で行われています。外部委託という事業形態はさまざまな分野に及び、専門的なもの、例えば、システムなどの改修事業など、さらには

行政が行うよりも効率よくできるように民間などに委託するような形態など、さまざまな分野で行われておりますが、その事業の多さに少し違和感を覚えます。それは新規事業が増え続ける現状で、廃止になる事業の数が比例していないことでもあります。

基本的に外部委託であるので、行政自体の仕事量が増えるわけではありませんで、物理的限界が現在の橋本市役所の能力キャパシティを超えることはほぼないにしても、事業の必要性や新規事業を行うには、少なからず現行事業の廃止が前提となるのではないのでしょうか。なぜなら、物理的限界がなくても、金銭的、つまり予算的に限界があるのではないのでしょうか。

財政再建を進める中、市民サービスの本来に必要な部分の質を落とさないようにするために、市民に影響の少ない事業を廃止していくのは当たり前のことだと思います。現状を鑑みると廃止事業数よりも新規事業、継続事業数が多いと思われれます。

よって、以下質問いたします。

小項目1、廃止事業と新規事業のバランスをどのように考えておられるのか。過去5年間の廃止、新規事業の割合、そして単年度での外部委託に係る経費をお教えください。

2番、廃止、新規事業を行う場合、どのような基準を持って検討されているのか。特に効果があるかないかの廃止基準については、明確な判断基準がなくては判断できません。目的の達成度、効果、享受できる市民数など、財政難だからこそ本当に必要な施策に予算付けするためにも、各担当課の判断などの曖昧な基準では行えないはずで、その基準がど

のようなものかお教えてください。

3番です。費用対効果についてよく考え検討するといった答弁をよくいただきますが、現状の外部委託全般では費用対効果が得られているとお考えなのか。本当に現状の事業全般は必要であり、市民にとってなくてはならないものなのか。費用対効果の観点でお答えください。

四つ目です。費用対効果を考え、スクラップ・アンド・ビルドを行わない限り、本当に必要な施策に予算を投入できなくなると考えます。思い切った事業の再編成が必要と考えます。本市ではスクラップの部分があまりにも少ないのではないのでしょうか。ビルドばかりが先行しているのではないのでしょうか。事業も目に見えない箱物と同じであります。必要のない費用対効果の薄い事業は廃止すべきと考えます。スクラップ・アンド・ビルドは適正に行われているのでしょうか。いかがでしょうか。

次は、大項目の2番です。現在活用できる最大の観光誘致について。

これは18番議員が詳しく聞いてもらっているので、本当に僕はもうさらっと終わろうかなと思っていますので、よろしく願います。

現在、「真田丸」が放映され、お隣の九度山町ではイベントなど多くの企画が行われると聞いておりますが、本市ではどのような企画や戦略を練っておられるのでしょうか。多くの観光客は、電車や車で来られるときに橋本市を通過すると考えます。呼び込まなくても来ていただける好条件にあると考えるのですが、本市での観光戦略をお教えてください。

以上、二点、明確な答弁、よろしく願います。

○議長（中本正人君）14番 岡君の質問項目1、外部委託全般の評価と各事業の必要性に

対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君）私がこの壇上で答弁するのも、これが最後になりました。議場に出席いたしましてもう11年になりますけども、議員の皆さまにご理解、ご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

それでは、答弁をさせていただきます。

外部委託全般の評価と各事業の必要性についてお答えします。

本市では、平成23年度から橋本市行政改革推進計画に基づき、行政業務の外部委託、いわゆるアウトソーシングを積極的かつ計画的に実施し、民間企業等の専門性やノウハウを活用した公共サービスの向上、コストの削減等に努めているところで、年間450件前後の事業を委託しています。

この委託を業務種別ごとに分類しますと、①計画等策定業務、②システム改修やその保守業務、③土木・建築工事等に伴う設計・監理業務、④施設の管理・保守・点検等業務、⑤施設の運営等業務、⑥その他の業務があります。さらに、その他の業務について細分化しますと、法の定めや専門的な知識・技術が必要となる検診・予防接種業務、補助金的性質の業務、イベント運営業務など比較的広範囲にわたり委託を行っています。

まず一点目について、委託に係る経費は一般会計決算ベースで、平成22年度が約16億5,900万円、平成23年度が約18億6,700万円、平成24年度が約16億5,700万円、平成25年度が約21億6,600万円、平成26年度が約23億9,800円となっています。本市では、かねてより行政改革の柱として、新規事業の抑制や事業のスクラップ・アンド・ビルドを原則として取り組んでいるところですが、過去5年間の廃止事業件数の割合が約8.0%、新規事業件数の

割合が約8.8%、その割合はおよそ1対1となっています。

次に二点目について、本市では平成20年度より行政評価システムとして事務事業評価制度を導入し、行政運営の改革・改善に取り組んでいるところです。本制度では、法定受託事務や実施計画により判断される事業、事業完了期限が設定されている事業を除き、事務事業単位に対して評価を行っています。そのため、個々の委託業務単位で評価を行ってはいませんが、事業に要した費用や人件費などを示した上で、その事業に対してどれほどの行政サービスを行ったかを示す活動指標や、その事業がどの程度達成されたかを測定する成果指標といった定量的評価と、その事業の必要性、有効性、効率性、執行方法の妥当性といった定性的評価を総合的に行うことにより、事業の拡充や縮小、統合、休止、廃止といった次年度以降の事業方針を決定しています。

次に三点目について、冒頭に説明させていただきましたとおり、委託を行っている事業の中には、法定事業や専門的な知識・技術を要する事業など、いわゆる「実施しなければならない・委託しなければならない」ものや、イベント運営委託事業など、「必ずしも実施しなくてもよいが、することで市民サービスの向上を図れる」ものなど、その事業形態がさまざまな分野に及びます。全ての委託事業を同じ尺度で費用対効果を示すことは困難であるとともに、費用対効果だけではその事業の必要性を判断することが難しい事業もあります。費用対効果によってはかりやすい事業については、実施計画、事務事業評価等を活用しながら事業の必要性を判断し、効果の低いものについては事業の縮小、統合、休止、廃止を行うなど、現在取り組んでいるところです。

最後に四点目について、財政の健全化を進める中で、人件費と委託料のバランスを見ながら歳出の削減に努め、新規事業の抑制や事業のスクラップに取り組んでいるところです。その上で委託を行っている事業全般をさらに見直し、精査を行う必要があると考え、「実施しなければならない」ものについては、市民サービスの質を低下させることのないよう、また、「必ずしも実施しなくてもよいが、することで市民サービスの向上を図れる」ものについては、事業の優先度と財源とのバランスを考慮し、下位に位置付けられたものについては、一定期間の凍結等も視野に入れた見直しを行っていきたいと考えています。ありがとうございました。

○議長（中本正人君）14番 岡君、再質問ありますか。

14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございます。企画部長、長い間お疲れさまでした。企画部長、僕が議員にならせていただいたときは、財政課長でおられたのかな。そのときに財政のわからん僕に、本当にいろいろ教えていただいたのを今でも覚えております。

本当に今も答弁をいただいて、すぐ再質問に入りたいと思うんですけども、まず一点目の1番で、1対1、8%スクラップして8.8%ビルド、まあだいたい1対1にはなっておるんですけども、ただ、これ、委託している予算というか費用はどんどん上がっておるんですよ。特に近年は、16億円、18億円になって、16に下がってから、20億円、21億円になって23億円という形になっているんですけども、これは委託事業の数は増えていないんですけども、委託事業にかかっているお金が増えているというのは、この原因は何なんだろうかと。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）まず、24年度から25年度にかけて大幅に委託料が増加しております。比較しますと、約5億900万円の増加となっております。増加要因の主なものを申し上げますと、橋本市・高野町・伊都消防組合の指令業務の共同運用に係るシステム構築委託料の平成25年度分が1億1,396万7,000円ございます。それから、県内の消防救急無線デジタル化共同整備に伴う、同じく橋本市・高野町・伊都消防組合の活動波のデジタル無線システム構築委託料の25年度分として1億9,833万6,000円を支出しています。それから、三石保育園の移転・新築に伴いまして、公設民営で行いましたので、民間への運営委託料といたしまして1億1,907万9,000円増加しています。それから、がん検診充実に伴う検診委託料の増加ということで、3,706万円が増加しているというのが主な増加要因でございます。

基本的には件数は大きく変わっていないんですけども、1件当たりの委託料の額が、先ほど言わせていただきましたとおり、非常に高い委託料を払っている業務が増えたということが原因でございます。

それから、25年度から26年度についても同じように比較しますと、2億3,194万円増加しています。これも増加要因の主なものを申し上げますと、あやの台の北部用地の基本計画策定、それが4,976万円。それから、自治体クラウド、それからマイナンバー制度に伴うシステム構築費として4,687万9,000円。それから、ため池ハザードマップの作成として2,796万9,000円。それから、がん検診の充実に、それから、肺炎球菌予防接種等の委託料が4,832万3,000円。それから、公金収納業務委託で1,752万9,000円等々、ほかにもいろいろあるんですけども主なものとして申し上げました。

24年度から25年度に増加分も含めて、同じ

ようなあれですけども、1件当たりの金額が非常に高い委託料となっているというのが増加要因でございます。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

そしたら、ちょっと見方を変えて質問させてもらうんですけども、委託料に今回ベースになっている金額の上に上積みがあるんで21億円、23億円になっているというのは理解できるんですけども、そのベースになっている金額というのがだいたい16億円から18億円の間ですよ、近年でいえば。この数字って、本市として委託する金額としては、行政的には妥当なんですかね。

なぜこんなことを聞くかという、財政再建の中で、もちろんやっていかなあかん削減が、例えば6億円削減していかなあかんという中で、十何億円も外部委託で事業を出してお金を払っているというような企業はないですよ。僕は企業的な観点でね。もちろん先ほど行政の答弁は僕、理解できるんです。行政というのはそういうところじゃないじゃないですか。民間の企業ではないので、やらなあかん事業というのは必ずやらなあかんのです。それはもちろん理解して聞いているのは、これ、外部委託やからですよ。基本的にやらなあかん事業というのは、行政マン皆さん、いてるわけでしょう。中でやったらええじゃないですか。

外部委託というのは、もちろん自分たちでできない、部長、僕、理解していますよ、先ほど答弁いただいた予防接種とか、計画とか、そんなのはもちろんわかるんです。自分たちがでけへんのを外でやるのは、もちろん当然それでいいんです、外部委託したらええのやけども、でも、ほんまに自分たちの中で、別に100%、この数字の中の事業というのは、全般でやらせてもらいますけど、細かく聞くの

市民がほんまに必要としている事業を、これから外部委託の中でもほんまに基準付けしていかんと、みんな同じ鎌で刈って、同じ減額率でいったら、ほんまに必要な事業までも減額になっていくやないかというのが怖いんですよ。

市民の中でほんまに必要としている委託が、どんどん減額されていって、結局が一番そこが市民ニーズで大きいところやのに、どんどん縮小されていってしもたら、やっぱり市民としたら、それどないかならんのかなという声は絶対出てきますよね。僕なりに考えたら、外部委託で必要ないというのはないと思いますよ、始めるときに必要ながあると思って始めてはるんやから。でも、ここはほんまに財政難と言うんであれば、いつときその事業を休止すとか、そういった手法を相手方に理解してもらわなあかんと思うんです。それで、僕はここで一般質問させてもうているだけで、別にやっていただけるんやったらやっていただけるで、僕は構わんです。僕はありがたい話やから。正直な話、やってもうたらありがたいです。

ただ、ほんまに思っとんのは、僕、いろいろ考えるんですよ。システム改修にしても、皆さん、システム改修で、システム100%使っている人はここにいますか。僕はわかりませんよね、システムというのは。よくわからない。だから、ほんまに要るか要らんのかちょっとわかれへんけども、要ると言われたらそうなんかなとしか理解できない。だって、わからないですからね。

だから、そういうのもほんま言うと、外部の専門の別の人から、ほんまに要るもんなんかどうかというのも1回精査してもうたほうがええ時期じゃないかなと。何でかと言うと、そのシステム改修もかなりの金額が上がってきていますので、そのシステムを实际使いこ

なせている人おるんかなという疑問もあったりだとか、ほんまにもう小さい疑問なんです。だから、別に、重箱の隅をつついて、これがこうやんか、これが悪いやんかという話をしているわけではないですよ。やめるべきときにやめて、休止すべきもんは今休止せな、それだけ財政が逼迫してんのに、外に払うお金もやっぱり縮めていかんことには、ほんまに必要な事業にお金が行かんと違いますかという話をしているだけ。

ほんまに必要な事業って、岡さん、何やねんと聞かれたら、いっぱいある。先ほど言うたように費用対効果でははかられへん事業もいっぱいあるけども、それは行政の中で順位付けせなしゃあないですよ。それはやっぱり、どれだけの市民がそれを享受しているかという数でしか僕はないと思うんです。その中で中止にしていく事業もつくっていくことには、その事業にお金が行かんで、それを順次、順序立ててやってほしい。だから、僕はこの数字に正当性があるとかないとかという話をしているんじゃないで、実際、中身が今交付金、減ってきているんですやん。やったら、外に出す事業もその割合に合わせて減っていくのが当たり前と僕は思うんです、僕はですよ。職員の数が減っているから、減った分の仕事を外に全部出すわけじゃないじゃないですか。僕、今度は戻せと言うんじゃないで、なくせと言うとるんです。事業自体をなくしてください、やめてください。僕、こんなん言いたくないですよ。それはこれから精査できませんかというお話を今一番したいんです。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）スクラップでいきますと、先ほども率で言いますと8%、逆にビルドが8.8%ということで、ほとんど変わらない、ビルドのほうが割合が多いということ

です。数字で言うたら、スクラップ・アンド・ビルドが達成できていないのではないかなという数字になるんですけど、現実にはスクラップした事業というのは170件ございます。170件の事業を検証して、なくしてきたと。5年間で170件をなくしてきたという実績がございます。

しかしながら、一方でビルドが非常に増えているということで、これはいろいろ国のほうの改正がころころ今よく変わる中で、実施しなければならない事業も増えていますし、国の経済対策による関係する事業、それから、市として取り組まなければならない人口減少対策事業、それから、さらに地方創生事業もそうですし、それから、市民のニーズにも対応していかなければならない事業も近年非常に増えているということで、スクラップも170件ありますけども、ビルドもそれ相応の件数があるということになっているのが実情でございます。

それから、先ほどシステムが非常に多くて、職員がそない使いこなしているのかなというご質問もあったんですけど、地方自治体といいますのは、市民生活と直結した多くの業務に携わっている関係上、その業務において多くのシステムが導入されております。システムの今クラウド化に取り組む前は、固定資産税、それから、個人住民税、国民健康保険税、それから、収納管理、後期高齢者医療、それから、介護保険、住民登録、医療費助成、障がい者福祉、健康管理、児童手当、児童扶養手当、市営住宅管理、幼稚園保育料など、大きく言って14のシステムに分散されてございました。本市の業務運営内容にあわせて、それぞれ構築されてきた独自の個別システムを持っておったんですけども、法の改正や業務内容の見直しがあるごとに、独自にまたシステムの改修、それから、カスタマイ

ズを行わなければならないということで、今までシステム改修費の増加にもつながってきたというような背景がございます。そのことによって、市民の皆さまに入力ミスとかで、いろいろご迷惑をかけたことも過去にもございました。

現在、システムの集約を進めて、オールインワンパッケージを図ることによって、経費の削減、それも含めてですけども、マイナンバー制度導入への対応も、それから、セキュリティの確保の観点からも、平成26年度からシステムのクラウド化を進めてきたということで、こんな関係で非常に最近では法改正によるシステムの改修もスムーズに行われている状況でございます。

そういう意見です。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）本当に心配するのは、交付金が減っていく中で、もうずばり聞きますけども、今の外部委託を維持していけるんですね。僕、それを心配しているから、一般質問させてもうたんですけど、先ほどからちょっと僕の思いと違う答弁が返ってくるので、ずばり聞きますけど、維持していただけるんなら僕は結構です。僕の立場では、維持していただけるのが一番ありがたいんです。だから、僕はただ維持できるかどうか心配なので、維持できないのであれば、本当に痛いところですけども、削らなあかんところは削って、必要な部分に足してくださいという話をしているんですけど、先ほどの話やったら、維持できるというか、必要やから、大事やから、わかるんですよ。僕が聞いている思いとは全然話が違うんで、僕は向いている方向は一緒やと思うんです。でも、お答えがすごくいい答えをもうているんで、僕ははっきり聞きます。維持ずっとしていただけるんですね。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）業務委託については、先ほども申し上げましたとおり、必ず実施しなければならないものというのがございます。それから、実施することによって市民サービスの向上を図れるものについては、やはり実施していくべきだと考えております。ただし、先ほどから言わせて、議員も同じことと言われると思うんですけど、何でもかんでもそうだからするということではなしに、十分精査をしていけばいいんじゃないかと、それによって廃止できるものがあれば廃止したらええんじゃないかということだと思っておりますけども、市といたしましては、先ほどの「実施しなければならない、委託しなければならない」事業、「必ずしなければならない」事業、これは法的にも決められておる事業もございまして、それと、それから、市民サービスの直結につながるものであれば、やはり進めていくべきであると考えてございます。

先ほど、25年度、26年度、24年度から25年度にかけて非常に委託料が増加したということもございましたけども、増加要因もちょっと言わせていただきましたけども、件数的には大きな増加となつてございませんので、ただ、1件当たりの委託料の額が非常に増えたために金額が増えたということでございますので、今後、その委託料、現在の財政状況についてでも、15億円、16億円の範囲であれば市民サービスを低下させないでできる範囲であると考えておりますので、今後も十分、議員のおっしゃるとおり、いろいろ事業の内容も精査しながら、それぞれ判断してまいりたいと思います。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

ちょっと安心しました。だいたい15億円から16億円程度やったら、だいたい基本的にや

っていける範囲やと。ということは、二十何億はまあまあ必要な経費で出ているんで、僕、その部分は、別に、自分の中でおかしいとは思ってないです。ただ、15億円から16億円の範囲内であれば本市の今の経済状況やったらやっつけられるんじゃないかと、その15億円から16億円の中で本当に必要な市民サービスをスクラップ・アンド・ビルドしていくという形でご答弁いただいておりますので、より厳しく、本当に何が必要か、何が必要じゃないかを精査して、その予算内で外部委託を執行していただけるように要望いたしまして、一つの質問を終わります。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、現在活用できる最大の観光誘致に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）現在、活用できる最大の観光誘致「真田丸」のおただしについてお答えします。

18番議員の質問にお答えさせていただきましたが、広域で参画している戦国わかやま誘客キャンペーン推進協議会での事業や、本市で開催するイベント等を活用し、観光客の誘致と経済の活性化に取り組んでまいりますので、ご理解いただきますよう、よろしく願いいたします。

○議長（中本正人君）14番 岡君、再質問ありますか。

14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）詳しい内容というか、18番議員がもう本当に詳しく聞いていただいたんで、同じ答弁をいただくのもあれなんで、自分からもう簡潔にと言ったら、ほんまに簡潔やなと思った。簡潔過ぎるような気もするんですけど、内容としてはもう先に聞いていただいて、議場の皆さんももう聞いていただ

いているんで、もうそれ以上僕も聞くことは
ございませんので、18番議員にお答えになっ
たとおりというか、僕もこれ、要望なんです
けども、ほんまに乗れる馬には乗るときまし
ょう。もう乗りましょう。使えるもんは使っ
ときましょう。それは僕の思いなんで、ほん
で、自分たちで次の今やっていることも、今
度は乗ったら乗ってもらおうような馬を自分ら

でつくりましょうというのがもう自分たちの
思いなんで、よろしく願いいたします。

以上です。終わります。

○議長（中本正人君）14番 岡君の一般質問
は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時56分 休憩）